

# AI学習など 知識の習得を効率化<sup>®</sup>する前に

## 「学習体験の充実」を

## 『FLENS』が提供する

## 学びの場で実現してほしい!!

タブレットとネットワークを活用した学習プラットフォームを企画開発販売しているFLENS 株式会社（大生隆洋代表）。学習塾向け商品の取り組みや状況、今後の展望、キャンペーンの実施とその背景などについて同社の小泉雅大氏に話を伺った。

**FLENS 株式会社** 東京都港区



小泉 雅大 氏

**楽しく学びながら「学習姿勢」が身に付くドリル教材**

簡単に言うと、「FLENS（フレンズ）」はいわゆるドリル教材だ。しかし、ただのドリル教材ではない。FLENSプラットフォームのコンセプトは、他者の学習進捗をリアルタイムに感じられる場であり、自分の習熟度に合ったびつたりのライバルと一緒に学習できる場であり、家庭学習の成果発表をするコンテンツの場であること。「ドリル学習が重要なことは塾の先生方な

わかっていらっしゃいますが、生徒さん一人で取り組んでもなかなかモチベーションが上がリません。でも、全国の学習塾とネットワークでつながり、同じくらいの習熟度の生徒さんと競争しながら取り組むと、ゲームのように楽しく続けることができるので、基礎学力を定着させることができるのです」と語る小泉氏。

2012年に算数からスタートし、理科、社会、小学生の国語の読解、英単語と教科や単元を増やしていき、対象学年も当初は小学4・5・6年生だったのが、今は小1〜小6、中学生は中1〜中3にまで拡大させている。生徒数も7年間で約10倍に増えているという。

**「講座のパッケージ化」を行い、最も効果的な運用マニュアルを作成**

順調に導入教室と生徒数を増やしてきた「FLENS」だが、今後はさらに進化させ、よりいっそう導入と運用がしやすい講座パッケージにしたいと所存だ。

「2012年当初は、どちらかというと先生自身がしっかりICTという道具を使い込んで授業に反映させる（このことを前提としたサービス設計でした。しかし近年は学習指導形態やサービスはさらに多様化する一方で、先生の採用が難しくなってきたり、労務問題への対応が迫られていたり、ICTを使

い込むというよりは、ICTのサポートを受けて生産性を高めるニーズが高まってきています。そこで我々は「講座のパッケージ化」を行い、カリキュラムや運用のイメージを完全に整えることにしました。それに従ってやっていただければICT運営が簡単にできるので、迷って悩んだりする必要がなくなります」授業が始まったらどんなことをするか、宿題チェックはどのようにするか、生徒への声

かけはどのタイミングでどんなことを言えばいいかなど、最も効果的な運営マニュアルを作成したという。またICT教材を使うとなると、生徒たちの学習の効率化、が大きな目標だと思われがちだが、「FLENS」の根底にはそれ以上に大切にしている考えがある。「先ほど申したように、ドリルはとても重要だけれどもなかなかモチベーションが上がらない子どもたちも多くいます。ですから対戦という『切磋琢磨』や結果を称え合う『相互承認』によって、充実した学習体験を提供することにより、主体的な学習姿勢を育むことが大きな目的なのです。単調になりがちなドリル学習に向かうための壁を取っ払うという仕事を我々はやってきたところなので、その価値を改めて提示したいと思っています。姿勢というのは、教科学習だけではなく学習全体に普遍していくものだと思いますから、できるだけ早期に身につけていただきたいと思

ます。「FLENS」の算数をやると年間約1万題解くことになり、力が付かないはずがないのです。もちろん、リアルタイムに生徒の解答状況が出てきて、進捗状況も一瞥になってひと目でわかることは言うまでもないが、そこをさらに充実させて先生方の負担を大幅に軽減し、より教育効果の高い仕事に集中できるようにしていく所存だ。

**集客につながる小4の算数特訓、無料キャンペーンを実施**

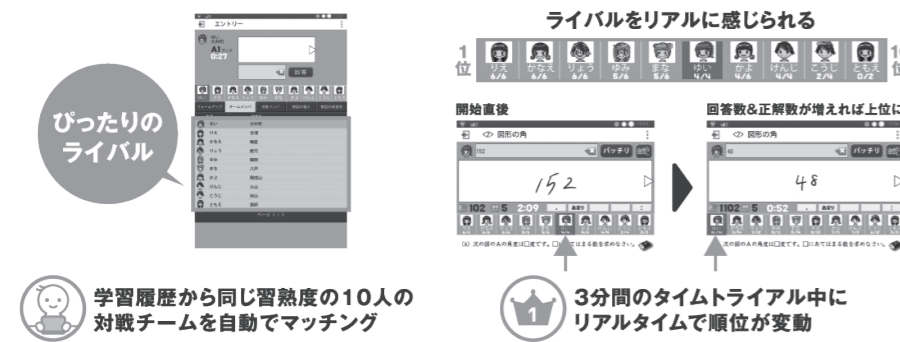
近々、「FLENS」の小4算数特訓の無料キャンペーンを実施する予定とのこと。小学4年生に限定した理由について、小泉氏はこう語る。「数年前の調査によると、小学4年生から算数が嫌いになる子どもが増えてきます。算数を嫌いにならずに、むしろ逆に好きになってもらうためには、小学4年生から学習姿勢を身につけるのが一番だと考えました。また、4年生から学習塾に通い始める子が多いので、この無料キャンペーンを利用して、ぜひとも塾様の集客につなげていただきたいと思います」

なお、「FLENS」及びキャンペーンについての説明会は、10月から東京・大阪・福岡等の各会場で順次開催する予定。詳細は同社のホームページで。

### いつもが本番になる「全国オンライン対戦」



### 本気で競える「ぴったりのライバル」



### 「やればできる、できるからやる」学習サイクル



家庭学習が「練習」

タブレット授業が「成果発表の場」

リハトレメソッド リハトレ：リハーサル&トレーニング

▼詳細はこちらから

